

## 令和元年度（第58回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

### 【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

#### ●<sup>ひだ</sup>日田集落〔<sup>やずぐんやずちよう</sup>鳥取県八頭郡八頭町〕（<sup>いじり</sup>区長 <sup>じゆんのすけ</sup>井尻 準之介）

##### （1）むらづくりの背景・動機

- ・ 日田集落は、県東南部にある八頭町に属し、鳥取市中心部から約 25km に位置し、「八東川」流域の標高 150m の中山間地域にある。
- ・ 農地の主体は水田で、農業経営の主体は水稻作である。
- ・ 人口は約 300 人で、高齢化率は 35 %（H27）であり、2025 年には人口 15%減、高齢化率約 50%になると想定されている。
- ・ H19 に多面的機能支払制度の受け皿かつ各組織活動を調整する「日田をよくする会」を組織し、集落活動の充実を図っている。
- ・ H21 年頃から集落内で話し合いの結果、安定して集落を維持するには①儲かる農業体制の構築②農作業委託先の確保③元気な人が農業や集落活動へ参加し易い組織設立が必要であるなどの意見集約がされた。
- ・ H24 に農事組合法人化した日田農業生産組合（58 名）（以下 法人）は、八頭町八東地域で唯一の集落営農法人であり、地域の担い手として、隣接集落を含め農地集積し、農地管理や作業受託を担っている。

##### （2）むらづくりの内容

###### ① 生産面における取組状況

- ・ 法人は、将来にわたる農業の維持・発展を図るため H29.5 に集落のビジョンを策定し、目標を集落全体で共有し、オリジナル商品「日埜田（ひのだ）特別栽培米」、「日埜田レンゲ米」を販売し、H29 からは町全域ブランド米「神兎（かみうさぎ）」に取り組み、経営多角化を目指した白ネギ栽培や梅の栽培、加工を実施している。
- ・ H23 に「日田鳥獣被害対策委員会」を立ち上げ、鳥獣被害を防ぐために集落を一団とする柵の設置施工・補修・捕獲を自力で実施。
- ・ 法人と「日田を良くする会」等の自治組織が緊密に連携し、いわゆる「2階建て方式」の集落営農・地域づくりの体制で、集落営農の範となる活動が随所にみられる。農地管理や鳥獣対策は近隣集落と広域連携しており、県下でも先進的な取組みとなっている。

###### ② 生活改善の取組状況

- ・ 地域の子供を交え生態系調査・保存活動（生き物調査等）を実施。
- ・ 鳥取大学の地域調査プロジェクトに参画し、調査研究に協力。

## 令和元年度（第58回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

### 【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

#### ●<sup>ごみよう</sup>五名<sup>ごみよう</sup>活性化協議会〔香川県東かがわ市五名〕（会長 <sup>おぎた</sup>小北<sup>いつろう</sup>逸郎）

##### （1）むらづくりの背景・動機

- ・ 過疎化・高齢化が進行するふるさと・五名に危機感を共有していた地区住民が、平成 17 年の五名小学校廃校を契機に、小学校の跡地利用と地域の活性化を目指す協議会（当時 五名活性化対策委員会）を立ち上げた。
- ・ ふるさと祭り等の交流イベント開催により、地区内外の交流人口拡大を図るほか、地域の農産物などを販売する直売所の運営など、雇用を生み収入を得る方法も確立し、持続可能な地域活動に取り組む。
- ・ 今年度にはカフェスペースを併設した新たな直売所のオープンを控えており、さらなる地域コミュニティの深化が見込まれる。

##### （2）むらづくりの内容

###### ① 生産面における取組状況

- ・ 女性部が中心となり産直施設「五名ふるさとの家」を運営。五名で獲れた米、きゅうり、アスパラなどの農産物や加工品、家庭料理などの販売はもとより、地区内外の交流の場や地域の憩いの場としても機能している。
- ・ 里山の保全と鳥獣被害対策を図るため、間伐材はシイタケ原木・薪・炭に、捕獲したイノシシは食肉に加工して販売。薪とイノシシ肉はふるさと納税の返礼品として好評を得ており、雇用創出にもつながっている。
- ・ 五名の名所や飲食店、体験コンテンツを網羅した「五名マップ」を作成。食べる・見る・楽しむをコンセプトに地域の魅力を発信。

###### ② 生活改善の取組状況

- ・ 移住希望者には事前に体験宿泊や地域行事への参加を促すなど、地域全体で支援した結果、これまでに 20 人以上の移住が実現した。
- ・ 地区内外の交流を図るため、五名三大祭りとして「五名ふるさとまつり」、「山びこ文化祭」、「ふるさとの家記念イベント&いのしし祭り」を毎年開催。
- ・ 空き家となっていた古民家を農家民宿「五名やまびこの宿」として整備したところ、帰省者や移住者のほか、大学の研究室やスポーツ少年団などの団体客、さらには外国人観光客も利用するなど、五名の滞在拠点となっている。

## 令和元年度（第58回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

### 【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

#### ●住民自治されだに〔愛媛県伊予市されだに〕（会長 みやもと 宮本 きよたか 清隆）

##### （1）むらづくりの背景・動機

- ・ 佐礼谷地域は 800m を超える山に囲まれた中山間地で、自然に囲まれ、きれいな水、豊かな土壌に恵まれ、果樹、夏野菜栽培を中心に発展してきた。
- ・ 平成 20 年 6 月、従前より地域の課題解決に取り組む「佐礼谷地域自治振興会」と「佐礼谷公民館」が母体となり、佐礼谷に関わる全ての人、団体、農事組合法人などの企業が一体となり住民自治組織「住民自治されだに」を立ち上げた。

##### （2）むらづくりの内容

###### ① 生産面における取組状況

- ・ 「(農)クリエイト利用組合」が農地の保全に大きく貢献し、併せてホタルの里で生まれる米を「ホタル米」と命名し消費者に販売している。
- ・ 「佐礼谷ベジタブルガーデン」はモデル農場として地域の若者が農家から指導を受けながら野菜栽培を行っている。

###### ② 生活改善の取組状況

###### ア 6次産業化

- ・ 「イエローキッチン（女性6人）」による郷土料理の提供、「ゆずこしょう」や「トマトうどん」の商品化など 6 次化の推進している。「ゆずこしょう」の加工では、地域住民やボランティア、地元高校からも協力を受けている。

###### イ 消費者との交流

- ・ 「されだにきてみん祭」「黄色い丘」「つるしびな祭り」などのイベントを通し、都市住民との交流を深めるなかで地域の魅力を再発見している。

###### ウ 環境保全

- ・ ホタルの保全活動により、子供達の環境保全意識が向上した。また、地域の資源としてホタル祭りを開催し、県内各地から多くの人を訪れるようになった。

##### （3）取り組みの成果・特徴等

- ・ 「笑顔と情熱 新しい風吹く里 されだに」を目指して農家と非農家が一体となって自治活動に取り組んでいる。また、若者を中心に、高齢者や女性などすべての年齢層の声が反映され、それぞれが地域で活躍できる場ができた。
- ・ 住民一体となった地域づくりを実践することで、地域を離れる若者も少なくなった。また、地域の将来を担う子供たちを地域で大切に育てる気運ができるとともに、イベントや体験ツアーを通じた「移住定住促進事業」にも取り組みはじめた。